



10月の東京講習会は鈴木遙人会長と清水祐亮副代表のお話から。後半は会員の鳳之上咲子さんをお迎えして、鈴木遙人会長とのエネルギー対談です。

◎トリートメントをサポート

TDEを発祥した初代会長の山岸隆初代会長が2000年に亡くなられて、2025年で四半世紀。鈴木会長は、10月の命日前後に、毎年欠かさずお墓参りに伺うそうです。「お墓に行って手を合わせると、いろいろ声をかけてくださるような気がします。お墓に伺う機会があれば、手を合わせてエネルギーを感じてみると、意外と交流ができるかもしれませんよ」とのこと。

家にある仏壇でも、故人とのエネルギー交流は図れます。鈴木会長も仏壇で亡きお父様とコミュニケーションを取ると、相手が何を言っているかわかる気がするそうです。生前は手厳しく叱られた相手でも、故人になると優しくコミュニケーションしてくださるのだとか。

「トリートメントエンパワー」の解説も行われました。同製品は、PHの基本であるエネルギー技術「トリートメント」

がしやすくなり、パワーアップするために考えられたもの。TDE能力者なら、自身で意図することで同様のパワーアップが図れるようで、そのための3つのポイントが紹介されました。

①トリートメントをする前に、鼻腔の後ろにある蝶形骨を意識する。「蝶形骨がある」と思うだけでいい。②小指の外側にエネルギー的な孫指(6本目の指で小指より太く長い)があると思ってトリートメントする。③孫指の外側にさらにエネルギー的なひ孫指(7本目の指で孫指よりも太く長い)があると意識し、そのひ孫指と親指とをリングのようにつなぐ。パラボラアンテナのイメージ。これを作ってトリートメントをするとさらなるパワーアップが図れる。



これらを意識するのは、トリートメントのし始めだけでなく、集中して考えないほうがむしろいいそう。この状態でトリートメントを受けるとどうなるか、被験者に体験してもらい、パワーアップしたトリートメントの変化を確認しました。

「トリートメントエンパワー」には、こうした要素を封入していて、トリートメントをサポートしているそうです。

人に限らず、会社やチームなどのエネルギー体や、空間のエネルギー体などを、人の体に見立ててトリートメントしてもさまざまな変化があるそうです。

◎生命ラインの調整

清水副代表もトリートメントのお話から。清水副代表のサ

ロンへ、母娘で対面調整にお越しになったクライアントさんのことです。妊活中の娘さん・37歳がなかなか妊娠しないとの相談を受け、原因を探るべくリーディングをすると、不妊の原因は夫婦の肉体的な問題ではなく、娘さんの別れた前夫の思いだということに気づいた清水副代表。前夫の思いをていねいにトリートメントしたところ、娘さんはすぐ妊娠したそうです。

バケツに水を溜めようとしても、底に穴があいていたら溜まりません。治療や、一般的な調整は、バケツの穴を塞ぐ行為と考えられます。塞げば水は溜まるから、めでたしめでたし…。「けれども、エネルギー調整を極めようと思ったら、その先が必要。なぜ、バケツの底に穴があいたのか？ その理由を見つけて対処すると、勝手にバケツの穴が塞がることもあるというわけです」と清水副代表。

当然ながら、調整師は、一所懸命にあちらこちらを調整しようとするものです。けれども「なぜその方のその部分がそういう状態になったのかを深読みすることで、不調が調えられていきます。もとの問題自体を消せば、現象は変わるわけです。だから、なぜその方がそういう状態に置かれているかということに気づいてあげる。それを気づかせてあげる。気づいたらもう改善してしまうんです。気づくまでは起きている現象はずっと続くかもしれません」。

エネルギー調整の際に、清水副代表が意識する指は、薬指。もちろん小指のパワーはすごいけど、と前置きしつつ、清水副代表は、弥勒菩薩しゆいしゆの思惟手の形にヒントを得たそうです。



人それぞれなのが面白いですね。ちなみに、薬指と親指を合わせた状態を作ると自分のエネルギーが高くなり、この状態で腕相撲すると力強くなるそうです。

さらに、「マテリアル調整」の実習も行われました。自分の今着ている服をトリートメントするだけで、一瞬にして服の手触りが変わるというもの。

「今日は着ていらっしゃる服でやりましたが、服に限らず、物にも全て意識がありますから、エネルギーを送ってあげると物も喜んでくれます。ぜひ研鑽してみてください」と結びました。トリートメントは奥が深いですね。

■自動書記&エネ感覚について 鳳之上咲子さん×鈴木遙人会長

◎PHで得た変化

鈴木●まず、鳳之上さんがどんな活動をされているかを教えてください。

鳳之上●現在は「神託書記」と呼んでいる自動書記(自分の意識を排除し、別のエネルギーとつながり、そのエネルギーの意図する文字や絵を描く現象)のセッションと、女性向けに性のカウンセリングとセラピーを行っています。神託書記のセッションは、エーテル体にアクセスするようなセラピーですので、エネルギーとは長く関わってきました。

鈴木●PHに入会されて、どれくらいですか？

鳳之上●2025年1月で、3年になります。

鈴木●能力伝授やオートロード、セミナーなど、いろいろ受けていただいて、なにか変化はありましたか？

鳳之上●なんといっても、自身のプロテクションについてTDEで学べたことが大きいです。

鈴木●たしかに、鳳之上さんのなさる自動書記は、上とつながっているいろいろなものを書きおろすセッションです。つながりたい先だけではなくて、横から入り込もうとされることだってあるでしょうから、プロテクションは欠かせませんね。「Sパージ」や「ディフェンスM」は非常に大切だと思います。

鳳之上●はい。おかげでずいぶん楽になりました。それまで



LET'S ENJOY TDE!

はいつも何う大神神社でご祈祷してもらうなどして抜いていただくことがよくありました。自分でもわからないうちに、なんかちょっと死にたいような気分になるみたいところまで行っていたのが、過去のことになりました。

以前は、書き終えたらクタクタになってボタンと寝ていたんですが、そういうことが一切なくなり、パッと座って書いて、書き終わったらすぐいつもの暮らしに戻り、食事を作ったりなどもできるようになりました。

鈴木●エネルギー感覚についても変化がおりだったとか。

鳳之上●はい。2024年に藤井ゼミに参加させていただきました。エネルギー感覚が全然わからないので、どうしたらいいだろうと参加したんです。ゼミにはそれぞれ個性の立った6名がいて、エネルギーの感じ方も使い方もそれぞれ違うことを踏まえて、藤井副会長が「こうするといいですよ」と的確に1人1人にアドバイスされていました。

私は、ヨガの瞑想に近い状態のことをポイントアウトされて、それでこの感覚でいいというのがわかり、ようやく「それを感じよう」というセンサーが働きだしたかなという。

鈴木●ありのままの自分の感覚でいいんだということですね。手の感覚だったり、嗅覚だったり、人によっていろんなエネルギーの感じ方がありますから。

鳳之上さんの場合は、こうして降ろして書いていらっしやるし、エネルギーを感じていないわけではありませんよね。

鳳之上●自動書記については、感じる・感じないというよりも…なんなんでしょう。

鈴木●理由を考える以前に、現象として降りてきちゃっていますからね。

鈴木●若い頃、世界中を放浪していらっしやったそうで。

鳳之上●19歳でドイツに渡り、4年間で過ごしました。その後、スペインのイビサ島に行きました。地中海に浮かぶ温暖な島で、多くのクラブがあり、世界的に知られるクラブの聖地。そこでも4年間。

鈴木●4年もいらっしやったら、頭がバグりそう。

鳳之上●おかしくなって「仕事したい」ってなりました(笑)。遊びすぎると、人間、ダメになりますね。そういう島ですから、なにも買わなくても、本当にいろいろなものが回ってきます。

というところで、出産して、普通の家庭を持っていました。8年間のヨーロッパ生活の半分ぐらい、バックパッキングで1人で、グアテマラなどいろいろなところを旅していました。

鈴木●インドに行かれたのはその後ですか？

鳳之上●日本に帰ってきて、ヨガをあらためて勉強し始めて、それから師匠と一緒にインドに行きました。

鈴木●鳳之上さんの背景には、ヨガが色濃くベースにおりだと思えますね。

鳳之上●ありますね。皆さん、体操のヨガはご存知だと思いますけど、私が学ばせていただいたのは、ヒマラヤ源流のヨガです。それはほとんど瞑想です。延々と、座って坐して瞑想するようなもの。活動としてはヨガセラピーといって、療法ですね。ヨガ療法で癒やすということをしていました。

佐々木調整師が「(あたりに)満ちているTDE」とお話しされましたが、ヨガではこれをプラーナと言います。プラーナがもう全てであるというか、愛である。ワードは違いますが、一緒だなと思って何っていました。

鈴木●日本でもヨガを教えていらっしやったんですよね？

鳳之上●15年間、指導もしてきました。

鈴木●ヒマラヤのヨガは瞑想だとおっしゃいましたが、瞑想にすごく深く、うまく入ると、素晴らしい世界を見られるじゃないですか。

鳳之上●そうですね。自分1人で座ってそこまで行くかというとなかなか行きませんが、やっぱり師匠方とヒマラヤなど



で座っていると、歴代の師匠方の霊体なども来るので、それらと一緒に座っていると、全然違う次元に連れて行ってもらえます。

鈴木●その感覚は、究極に言う「愛」ですか？ なんていう表現でしょうか？

鳳之上●体がない感覚です。表現するのが非常に難しい。そこにずっといたい…でも、そんな雑念が出たら消えちゃうんですけど、なんとも言えない時空間にいる感じです。

◎神託書記

鈴木●神託書記について伺っていきましょう。

鳳之上●自動書記についてご説明すると、自動的に書いてしまう、自分の意思ではない状態で書くことです。主に手が勝手に動くタイプの自動書記と、私のように文節文節で降りてくるメッセージをそのまま「私が」書くスタイルとがあります。最初の頃は「なにが起きているのかよくわからないけれど、聞こえるので書く」ということをずっとして、初期は「こういうふうにするといい」ということをいろいろ教えてくれました。「鳳之上咲子」の名も降りてきた名前、他にも「活動は着物を着てやる」とか「神託書記」の名にすればいいとか、最初期にたくさん出てきました。

鈴木●私も、鳳之上さんのセッションを受けさせていただいたことがあります。最初に呼吸法で調べてから、なにかとつながっていらっしゃるんですか？

鳳之上●よく「なにかとつながるんですか？」とおっしゃるんですけど、そんな感覚でもないんですね。

鈴木●質問したことに対して、自然と回答が降りてくる？

鳳之上●そうですね。ただ、その方の質問内容に、そのままの答えが来るということのは少なく、だいたいは抽象度が高いものが降りてきます。降りてきたものは何通りにも理解できると思うんですけど、それをその方のお悩みや知りたことに沿って読み解いていく感じですね。

鈴木●私がさせていただいて面白かったのは、鳳之上さんが学んでいないワードなどが降りてくることがあるんです。ご自身の知識外の難しい漢字とか。

鳳之上●そうですね。

鈴木●難しい言葉について、「どういう意味なんだろう」と降ろした言葉を鳳之上さんが調べたりなさるんですよ。

鳳之上●ほとんどそうですね。音はわかるんですけど、こういう漢字を書くかわからないので、漢字を調べることも少なくありません。会員の安西伸大さんにいただいた、漢文学者・白川静さん監修の辞書で調べたりして。「ああ、だからこの字なのか」と私自身も学びながら書くこともあります。

鈴木●鳳之上さんご自身ではなくて、鳳之上さんを“通して”出てくる言葉だということがリアルに伝わってきました。

鳳之上●わからないことや知らないことを、本当にたくさん教えてもらいました。

鈴木●違う言語が出てくることはありますか？

鳳之上●ライトランゲージと言われる宇宙語みたいなものは、最近出てきていますが、これを解説するのがいいのかよくわからないので、ただただ書いています。ただ、いたずら書きかなと思いつつも、書くとスコンと抜けるので、これはやっぱりなにかありそうだと感じています。

鈴木●自動書記を始めたきっかけはなにかありますか？ どういうふうに始まったのか。

鳳之上●高校2年生、ですかね。印象的な出来事がありました。といっても最初はそれが自動書記だということにまったく気づいていませんでした。当時、選択科目で美術、工芸、書道とあって、私は書道を選んでいました。ときには自由なものを書いていい日もあり、その時、ティーンエイジャーでしたから、ずっと美しくいられたらいいなという思いがあり、美しいという字に、具材の具、久しく留めると「美具久留」と書いたんです。

それから約30年経ち、大阪府羽曳野市にある今の家に引っ越してきました。そこで氏神さんにご挨拶に行きたいと、近所の方に教えていただいて訪ねると、なんとその神社の名前が「美具久留御魂神社(みぐくるみたまじんじや)」。高校生の書道の時間に書いたその字だったんです。ですから、それが最初だったなと。30年経って気づいたことです。

鈴木●思い返してみれば「あの時に」。

鳳之上●そうですね。そういう言葉の創作をあまりしたこと

がなかったので、自分で書いた言葉をよく覚えていたんです。

鈴木●その神社をパッと見たとき、驚かれたでしょう？

鳳之上●はじめはワケがわかりませんでした。先日、神託書記が全部仕上がったのでその神社にお持ちしたら、とても喜んでいただけました。

◎二十四巻の巻物

鳳之上●3年前にご神事ばかり書きおろしていた時に、宮古島のどこに行って、どういう人に会ってとか、そういうのがたくさん降りてきて、八木橋良一調整師に、書いたものをお渡ししたことがあります。そんな流れでご縁が繋がったカミンチュさんにお目にかかりました。

それから3年あまりが過ぎ、先日、娘の結婚式で沖縄に行った時、そのカミンチュさんに、書きおろしたものを持って行っただんです。二十四巻の巻物をすべて書き終えたので、最後の巻を持って行き、サニワ(神様の声の内容を判断すること)をしていただきました。

鈴木●いかがでした？

鳳之上●まず「この者は、アマテラス系」だとおっしゃるん

です。私たちはよく「神仏」と言いますよね。神様と仏様。「どちらかという、神社系で神様のことをお伝えしている。(鳳之上さんは)さらに仏のことを学び、両者を融合させた時に、世の中にお出しすることが起こる。精進してもう少し仏のことも学んでください」と言われました。

鈴木●言われてしまったら精進するしかありませんね。

鳳之上●まだやるんですかって。また学びだなと、はい。

鈴木●とてもきれいな字をお書きになりますが、書道をしていらしたんですか？

鳳之上●小学校1年生から6年生まで毛筆を習いました。

鈴木●どれかひとつ開いていただけますか。(鳳之上さんが神託書記で書き上げた巻物一巻を広げる)

鳳之上●これは「魂の書」というものです。令和4年2月22日、最初の巻物です。

鈴木●こういうのを何本お書きになったんですか？

鳳之上●24本です。紙の始めから書いてほしい紙の最後で、文章がきれいに終わるんですね。何千枚と書いていますけど、一字一句間違わない。書き損じがないんです。

なので私ではありません(笑)。自分だどうしても書き間違いつてありますから。それが起こらない。そして必ず1枚

で終わる。

鈴木●ちょっと読んでいただけますか。

鳳之上●「神託書記 これにて申すは 各々の取り組み異なりて 御魂意よく 分かりて 又先へ進まれん 故ここ訪れしは 喜ばしき事なるも 正に行いて 事はじめしはこの時もちてはじめて御魂の躰持ちたる姿にて この地に生受けたる喜びの感生まれる出づるなり」

(二巻目の巻物を紐解き)「宙の極 己が内にありと悟ることとなるなり ここより 二十四の巻 つづりて今を顕わさん 結びて絵につながりては また先へ向うなりなむ」

こういう表現が、国語的に合ってい



るかどうか、そういった知識すらありませんが、まあ出てくる感じなんです。次「魂の書」といってここから始まります。

鈴木●今までの2枚はイントロダクションだったんですね。

鳳之上●そうです。最初のほうで“絵になる(結びて絵につながりては)”と書いてあったじゃないですか。でも、それを書いたのは2022年のことで、私は絵は描かないと思っていたし、その神託自体を忘れていました。「神託書記」の最後が2024年9月なんですね。時間も経っているし、絵を描くと言われたことも忘れていたんですけど、今はそういう絵になってきています。

鈴木●絵も描いていらっしゃるんですか？

鳳之上●もうグニャグニャの絵だし、何を伝えようとしているのかわかりませんが、降りてきたら描いています。

ここには「死の書」がありますね。死について述べられたものなんですけど、これは父が亡くなる寸前に降りてきました。なんだか、この巻を入れたら父が浮かばれる気がしたので、棺に入れました。

それから「結の書」。「ヨガ」は「結」という意味でして、神とつながるとか、結ばれるということを差しています。あと「神の書」。神とはなんぞやということですね、神様の概念。こちらは「命の書」。ここでは、命を知るには、神と性を知る必要があるということを教えてくれています。

鈴木●それで性についても勉強されたんですか？

鳳之上●そうですね。これを書く前に、なぜか性について、真面目に皆さんにお伝えしたい気持ちが高まってきて、ある師匠のところに行き、健やかな性について学んできました。それが終わった時にこれが降りてきて「神と命に関する性のこと」とありました。

鈴木●これは「真の書」。

鳳之上●「真の書」は、最後の24本目にあたります。

鈴木●鳳之上さんは、こうしたことをニュートラルに受けとめていらっしゃるのが素晴らしいですね。

ところで、こうしてお書きになったものを、矢追純一さんにもお渡しになられましたよね。

鳳之上●はい。ベテラン会員の安西さんが矢追純一さんにお目にかかるという時に「矢追純一さんってご存知ですか。自

動書記を書かれたらどうですか」と軽く言われて「じゃあ書いてみますね」と書いたんです。私は存じ上げなくて、「こういう本を出されてる方です」と言われて本を手にとってさうらっと拝見しただけ、あとはプロフィールを読んだだけなんですけど、なにか降りてきたので、サーッと3枚ぐらい書いたら、それを安西さんが持って行ってくださって。

鈴木●矢追さんにお渡しになったんですよ。

鳳之上●その時に矢追さんから、貴重なアドバイスをいただきました。「こういうものを得ると『世の中に出して…』と言う方が多いけれど、これは自分のためにまず大事に使ってください。そこがいちばん大切なところですよ」と。

鈴木●矢追さんはいいことをおっしゃいますね。

◎呼吸法と瞑想

鈴木●では、実習を。鳳之上さんのガイドに沿って瞑想や呼吸法を行ってみましょう。

鳳之上●よく「今ここ」と言いますね。瞑想は、今ここに存在するためのツールです。

私もそうですが、「雑念を取り払って」なんて言われても、雑念ばかりで、なかなかそうはなりません。「無になる」とよく言いますが、そのもっと前の段階の瞑想法はヨガの中にいっぱいあります。その中の1つで、ガイドが言葉で情景を話していった、その情景をイメージしてもらいながらそれに集中していくのが誘導瞑想です。

PHでも「軟酥の法」で同様のことを行うことがありますよね。

そういうのもあれば、もっと簡単にシンプルなもので、呼吸法でやっていくと、いつの間にか呼吸に集中することができます。それはもう瞑想法なんです。なので、瞑想を体験していただくのに、簡単なその呼吸法がいいかなと思います。

鈴木●呼吸法をリードしていただきましょう。

鳳之上●楽に座ってください。背もたれなどに、もたれたほうがいいのかもかもしれません。呼吸を吸ったり吐いたりするんですけど、ご自分で吸おうとか、吐こうとか、しないでください。基本は吐くことが大事なんですけれども、自分の外側と内側

を行き来する風というのが、サンスクリット語で「ヴァーユ」という“風”なんです。

その風を感じるっていうのが基本中の基本の呼吸法です。

まず目を閉じていただいて、ゆったりと、お腹の力を抜いてください。肛門の力も抜くぐらい。女性だったら、膣の力も抜きましょう。尿道も緩めましょう。それくらい下のところを弛めてください。

そしてゆっくりと、意識は鼻先あたりでもいいです。どこか一点に置いた方がわかりやすければ胸でもいいです。もっと感じたいと思う方は、お腹に手を当ててお腹の上下する感覚に注目していただいても結構です。

そして自然と湧き上がってくる風、吸うと勝手にお腹が膨れますよね。そして吐くと、少し沈み込みます。それをゆったりと感じていきましょう。

こうしているうちに、自分の肉体の外側にあるエネルギーですね。PHでは「TDE」、ヨガでは「プラーナ」と呼ばれるものですが、それを吸い込んだ時に、ご自分の中を駆け巡っていくという、その感覚だけに集中していきましょう。

それでも集中が呼吸に向かわない方は、吸って吐いて1回として、数える…でも結構です。

気持ちよく呼吸に集中できる方はそのまま、ただただ吸って吐いて心地よい風の感覚とか、肉体がふくれ上がったらしぼんだりする感覚、それにチューニングしていきましょう。

これがまずは風を感じる、プラーナを感じるというベーシックな方法ですね。

今度はゆっくりと吐くという、それを行っていきます。

まず吸い込むのではなくて、ゆっくりと深く吐いていきましょう。吸い込む時は、自分で吸い込むのではなくて、勝手に吸い込まれていく。エネルギー。自分の周りにあるもの。すーっとご自分の中に取り入れて行く感覚。深い呼吸をしていきます。

これが瞑想の状態、今、ここ、私、の状態になってるかと思うんですけども、どうでしょうか？ こんな感じで。ベーシックな呼吸法です。

呼吸法というと、ヒマラヤの呼吸法は本当に何百種類もあります。ですが、今やった呼吸法が全てのベースです。皆さ



んも今、すでに瞑想されていた状態でしたので、瞑想法をやってみたいという方は、今やった呼吸法を5分ぐらい行えば、集中した素晴らしい瞑想になるかと思います。

鈴木●気持ちいいですね。

鳳之上●最近はビジネスパーソンも「今、ここ、私」と意識される方が増えていますよね。

鈴木●今この瞬間がいちばん大事ですしね。神託書記の全二十四巻は、人が生きる上での本質的なことを述べていらっしゃるわけですね。その中から皆さんにひとつ、ご披露いただけないでしょうか。口語で意識していただければ結構ですから。

鳳之上●「さとりについて」でしょうか。「智慧でさることが1つのレベルで、もう1つのさとりというのは、心で愛を知って悟ること。知性と愛と両方を得た時に、やっと目覚めるように人は至ります」ということを書で書いています。

鈴木●素晴らしい。

鳳之上●私もそれは初めて聞いたことでした。

それから「資源の書」は、地球には無限の資源があるということを、いろいろな言葉で示してくれています。ですから「(資源に)限界があるというのは人間の錯覚である」。そういうことも書は教えてくれます。

鈴木●それは鳳之上さんが考えたんじゃないくて？

鳳之上●そんなことを私は全く知りません。もう少しお勉強したほうがいいですね(笑)。

鈴木●鳳之上さん、ありがとうございます。

